

池田文書の研究(56)

著名人の書簡(経歴判明の人を含む)(その6)

池田文書研究会

[207] 福地源一郎の書簡

福地源一郎は明治期のジャーナリスト・劇作家。源一郎の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に1通掲載に付省略。

[208] 福羽美静の書簡

福羽美静は幕末・明治期の国学者。美静の書簡は日本医史学雑誌第57巻第4号に1通掲載に付省略。

[209] 藤波言忠^{ことただ}の書簡

藤波言忠は公家華族。言忠の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に5通掲載に付省略。

[210] 伏見宮家家令・家扶・家従の書簡

伏見宮家は皇族。家令・家扶・家従の書簡は日本医史学雑誌第54巻第1号に3通掲載に付省略。

[211] 北条氏恭^{うじゆき}の書簡

北条氏恭は武家華族。氏恭の書簡は日本医史学雑誌第55巻第4号に2通掲載に付省略。

[212] 細川潤次郎の書簡

細川潤次郎は明治・大正期の法制学者。潤次郎の書簡は日本医史学雑誌第57巻第4号に5通掲載に付省略。

[213] 細川廣世の書簡

細川廣世は明治期の官僚。天保10年土佐藩医家に生まれる。明治4年文部省出仕、元老院少書記・統計院御用掛を勤める。20年没。享年49。(1839-1887)

1 明治 年 月 26 日 (2646)

(封筒表) 池田謙^(ママ) 齋 様 上ゲ置

(封筒裏) 〆 細川広世

拝呈、陳は明後廿八日医学部え有栖川宮午前九時無間違御出之趣ニ付、其段御承知置被下度、小子ハ九時前參校可致ト存候、此段為念併テ申入置候也

廿六日^(ママ)
池田謙 齋 様

細川広世

2 明治 年 5 月 31 日 (2645)

(封筒表) 駿河台 池田謙齋様 願用親展

(封筒裏) 封 五月三十一日 細川広世

拝呈、倍御清穆御繁夥奉恭賀候、過日は山川より御手数奉願恐謝々々、陳は蛸殻町阿部金母過日来病氣ニ付、老兄之御診断ヲ仰キ度再三相願候趣之処、未ダ不得御診断趣、然ル処病者之意先生之御一診ヲ得バ死ストモ遺憾ナシト頻ニ渴望之由ヲ以、無抛懇意之者より懇々小生迄依頼申出候間、甚申上兼候得共、何卒御操合ヲ以一寸御診断相仰度、小生より奉懇願候、尤校書社会⁽¹⁾ニ付先生之思召如何ト存候得共、小生ニ於テハ一面識モ無之人物只懇情不得止之歎願ニ御坐候、呵々、孰レ細縷ハ拝眉可申上候得共右迄相願度、早々不悉

広世

池田国手 坐下

再伸、中井弘より御依頼可申手続之処、小生参り合セ如此候也

(1) 校書社会 芸妓社会の事。

3 明治 年 月 2 日 (3244)

一書奉呈仕倍御清穆御奉奉欣喜候、陳は過日御

依頼申上候儀ニ付喜谷市郎より一応御面会相願度由申出候間參堂為致候、御繁忙中甚欠敬之至ニ候得共宜様奉願候、將亦相願置候一条モ御手数恐縮之次第ニ候得共何分御許容被下度、万本人より御聞取奉煩候、書余期拜眉候、早々再拜

二日

広世

池田先生 椅前

4 明治 年 月 17 日 (3242)

倍御清穆御繁務奉賀候、陳は過日參堂之砌粗御咄申候通邸宅売却致度候処、何分華族ナラデハ十分之〇ヲ得候事難ク候間、甚恐縮之至ニ候得共、万一御治療之向土地轉換之御指揮等有之候様之華印候ハ、健康上より御説得拙邸相求メ候様御尽力奉煩度、不外儀故自由ケ間敷儀奉歎願候、將亦喜谷市郎より昨日モ参り類ニ願意督促此以御繁多中申上兼候共、暫間之御隙モ候ハ、可然様奉希候、參堂縷々御咄可申答ニ候処、却テ御邪魔ヲ憚り以寸楮得貴意候也、欠敬之段は幾重モ御寛有是禱右迄、早々再拜

十七日

広世

池田先生 椅前

(注) 入澤達吉の「思出の記」によれば、萩原三圭の斡旋により、明治19年達吉の母唯が新潟今市の家をたたみ上京、20年に細川廣世の土地・屋敷を2500円で購入したと記している。

5 明治 年 12 月 28 日 (3243)

寒気難堪候得共、倍御清穆奉欣喜候、陳は過般御相談申置候中島議定⁽¹⁾病症在再全癒ニ趣キ不申、五六日前より岩佐之考ヲ以導水管相施シ瘡口稍裁開致候得共全効無之候間、御繁忙中甚申兼候得共一応御診断相願度、參堂相願可申答之処乍欠敬以使御依頼申上候、何卒一兩日中御操合御診察之程奉冀望候、書外期其節候、早々再拜

十二月廿八日

広世

池田先生 椅下

宿所 淡路町一丁目壺番地 中島信行

(1) 中島議定 中島信行。明治期の官僚・政党政治家。弘化3年土佐藩郷士家に生まれる。大蔵省出仕後明治14年自由党設立参画、副党首。23年初代衆議院議長。男爵。32年没。享年54。(1846-1899)

[214] 堀河康隆^{やすたか}の書簡

堀河康隆は公家華族。康隆の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に2通掲載に付省略。

[215] 堀越角次郎の書簡

堀越角次郎は幕末・明治期の商人。横浜開港後洋織物輸出入業を行う。

1 明治 18 年 12 月 5 日 (2651)

拜啓、陳は御息⁽¹⁾様来ル十五六日御乗船ニ付、英金六十ハンド買求承知仕候、此分は買入置候間一兩日之内ニ持参可仕候、且又為替買入方之義は来ル七日買入方可仕候、先は貴答迄書外参上万々可申述候、頓首

十二月五日

堀越角次郎

池田様 侍史

(1) 御息様 長男 秀男は明治18年11月ドイツ留学。よってこの手紙は明治18年のものと思われる。

[216] 堀越増五郎の書簡

堀越増五郎は明治期の株式・金融業者。

1 明治 13 年 12 月 21 日 (2659)

記

一、金拾八円也 金千二百円也 十月三日より十二月三十日迄 三ヶ月利足

一、金六円三十銭也 金六百三十円也 十一月三日より十二月三十日迄 二ヶ月利足

メ 金廿四円三十銭也

右之通差上候也

十三年十二月廿一日

堀越

池田様

2 明治 年6月26日 (2652)

先夜は参上御馳走被仰付難有御礼奉申上候、只其節被仰聞候金録別紙之通今日買入申候間此段奉申上候、就てハ東京府書替相始り次第附替可仕候間、御名前判御渡し可被下候

一、兼て御預り秩録元利金并ニ金録利米共是又別紙之通請取御差引仕候間、此段御承引可被下候、右之段参上可申上之所乍失敬以書中奉申上候、書外拝顔可奉申上候也

五月廿六日 堀越増五郎
池田奥様⁽¹⁾ 尊下

(1) 池田謙齋の義母 久子。

3 明治 年7月22日 (2654)

拝啓、昨日ハ拙宅へ御尊来被成下候所、折悪敷不在ニて不得尊顔失敬御高免可被下候、陳ハ其節御尊面ニて被仰置候郵舟株之義、今朝注文仕八十四円五十銭ニて四拾五株丈買入申候間此段不取敢奉申上候、尚第四銀行⁽¹⁾より金三千七百五十円也正ニ請取申候、先ハ右御通知迄、書外参上拝顔万々可奉申上候、恐々頓首

七月廿二日 堀越増五郎
池田様 尊下

(1) 第四銀行 第四銀行本店は新潟にあり、新潟に住む親戚で医師の竹山屯^{たむろ}よりの送金と思われる。

4 明治 年1月15日 (2655)

前文御高免被遊可被下候、陳ハ別紙手形通り御依頼之為替取組、大坂武井方へ日限西京へ持参御渡申上候、早々文通仕候間左様御承諾被下希上候也、尤廿三日ハ日曜日ニ付廿四日限りニ仕候、左様御承引奉願上候也、早々頓首

一月十五日 堀越増五郎 拜
池田様 尊下

5 明治 年2月8日 (2656)

尊書拝誦仕候、陳ハ竹山様⁽¹⁾より又々金壹千円也為替手形御送り相成候ニ付御持せ被下正ニ御預り

申上候、明日朝^(ママ)千百円也一月請取方可仕候、就てハ株券四千百円也買入方可仕旨被仰聞委細拜承知仕候、陳ルニ船株今朝相場書之前後ニて出来可申と二軒へ注文仕候所、現物九十二円二三十銭位と申事ニて余程相違仕候間、今夜行違亀助ヲ以成行申上御差図相伺申候間、同人より御聞取被成下候事奉存候、先ハ右御報迄、書余拝顔万々可奉申上候、恐々頓首

二月八日 堀越増五郎
池田様 尊報

(1) 竹山様 新潟に住む医師竹山屯の事。

[217] 堀江芳介(?)の書簡

堀江芳介は明治期の軍人。天保14年長州士族家に生まれる。戸山学校長・第1・第6旅団長歴任。明治35年没。享年60。(1843-1902)

1 明治 年2月19日 (2649)

拝啓、陳は拙者愚息儀発病ニ就てハ御診察蒙り度候間、当方位御序モ被為在候ハ、乍失敬御枉駕御来診奉願上度、捧拙書右御依頼申上候、敬白

二月十九日 堀江芳介^(オ)
池田先生

[218] 本田親雄^{ちかお}の書簡

本田親雄は明治期の軍人・官僚。親雄の書簡は日本医史学雑誌第57巻第4号に3通掲載に付省略。

[219] 前島^{ひそか}密の書簡

前島密は近代郵便制度を創設した明治期の官僚・政治家。密の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に2通掲載に付省略。

[220] 榎村正直^{まきなお}の書簡

榎村正直は明治期の官僚・政治家。正直の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に12通、日本医史学雑誌第57巻第4号に10通掲載に付省略。

[221] 益田^{たかし}孝・富永^{ふゆき}冬樹の書簡

益田孝は三井物産社長。富永冬樹は益田孝夫人の兄。孝・冬樹の書簡は日本医史学雑誌第57巻第4号に6通掲載に付省略。

[222] 股野 琢の書簡

股野琢は明治大正期の儒者・官僚。天保9年播磨竜野藩に生まれる。内務省内事課長・帝室博物館総長・宮中顧問官を勤める。大正10年没。享年84。(1838-1921)

1 明治26年3月23日 (2725)

(封筒表) 侍医局長 池田謙齋殿 親展

(封筒裏) 内事課長 股野琢 (宮内省ゴム印)
今般改革ニ付此際免職之輩ニ限り恩給ヲ受クヘキ者ニ在テハ恩給年額一年分、一時賜金ノ者ニ在テハ其賜金額ヲ特ニ下賜可相成事ニ治定相成候間、御心得迄ニ通牒可致置旨大臣之命ニ依リ及御内報候也

明治廿六年三月廿三日 内事課長 股野琢
侍医局長 池田謙齋殿

[223] 松井貫七の書簡

松井貫七は池田家出入工事業者。

1 明治 年6月3日 (2713)

拜啓、陳は下水蓋之儀ニ付テ過日御伺之上大門通其外古鉄物商へ四五軒直段間^(ママ)合候テ左之予算額ニ御座候間、此段御伺申上候也

一、古鉄式分厚板

一、巾巻尺 但シ骨^(ママ)目凡七貫五六百ヨリ八貫位

一、巻間ニ付金巻円九拾銭位上り

一、間数長サ三十五間巻尺

右ニ付代金ハ左ニ

金六拾六円五拾銭 但シ前記ノ鉄板三十五間ノ代金弐円四拾銭 但石工三人見積り

金弐円七拾五銭 但シ右手伝鷲方五人積り

合計金七拾七円六拾五銭

外ニ運送費

右之予算ニ御座候得共木造之ニ倍ニ候、乍併後日之為メニハ鉄製ノ方宜敷候得共、費出額之廉ヲ伺

置度ト存候、右ニテ御承諾ヲ得レハ早速手配仕候、甚タ恐入候得共近傍御通行之折、現場御一覽被成置下度候、右御伺旁如斯御座候也

六月三日 松井貫七 拜
池田様 侍史

2 明治 年10月4日 (3153)

謹啓、陳は昨夜御書面之御趣旨敬承仕候、扱テ小川ノ件ニ付今夕中根方へ参り取調書可受取申候間、明日罷出候上被仰付之廉ニ詳細ニ言上可仕候、何分売却段ニ至リテハ諸方へ依頼致シ、日ニ夜ニ聞廻リ居リ候得共未タ好買人ヲ発見セス、殆ト当惑仕居リ且亦関信之助及小生之杯ニモ御敵命之次第、一応御趣千万之御儀ニ奉存候故、自宅之儀は無論売却仕候テ精算相立候得共、他ハ何分即刻之間ニ合兼、実ハ困却致居リ候、何れ明日参邸之上篤ト事情可申上候、不取敢御請而已如斯御座候、匆々敬白

十月四日 貫七 拜
池田様 侍史

3 明治 年4月1日 (3197)

謹啓、陳は山田泰造ヨリ係ル地上権設定登記請求事件訴状及呼出状御送付被成下、正ニ御受申候、追て委任状作製之上御調印相願候間、可然御含置被下度此段御受迄、如斯御座候、匆々頓首

四月一日 貫七 拜
池田様 侍史

4 明治30年 月 日 (2712)

(印紙三円添付) 証

一、金陸仟円也

利子^(ママ)老ケ年金拾円ニ対シ金拾円ノ割合即チ年老割トス

右金陸仟円ハ貴殿ヨリ借用シ正ニ領取シタリ、返済ハ来ル明治参拾 年 月 日トス、利子ハ今月ヨリ毎月廿五日ニ年老割ノ割合ノ金額、即チ金五拾円宛ヲ支払フ者トス、保証人ハ連帯債務者タルヲ以テ本債務ト同様直チニ履行ノ責ニ任スル者トス、前文確約候也

明治卅 年 月 日

東京市神田区猿楽町二番地
債務者 松井貫七 印
同
保証人 松井信次 印

池ヒサ殿

（池田謙斎の自筆下書き）

5 明治34年 月 日 (3448)

（印紙）金円貸借証書

明治三十年 月 日債権者池田ヒサ、債務者松井貫七及連帯債務者松井信トノ間ニ左ノ金円貸借契約ヲ締結ス

第壹條 松井貫七ハ明治参拾四年参月式拾捌日金陸仟円ヲ壹箇年金百円ニ付拾円即チ年壹割ノ利息付ニテ池田ヒサヨリ借受、正ニ領収シタリ

第貳條 松井貫七ハ池田ヒサニ対シ左ノ事項ヲ履行スベシ

第壹 元金陸千円ハ明治参拾 年 月 日ヲ期限トシ返還スル事

第貳 利息ハ第一條ニ記載シタル割合ヲ以テ計算シ、毎月式拾五日限り其月分ノ支払ヲ為ス事

第三條 保証人ハ債務不履行ノ場合ニ於テハ債務者ト連帯シテ其債務ヲ履行スベシ

右一同相違ナキ事ヲ認メ、署名捺印ス

武蔵国東京市神田 一

債権者 池田ヒサ 印 年齢
同国同市同区猿楽町二番地

債務者 松井貫七 印 年齢
同

保証人 松井信次 印 年齢
（池田謙斎の自筆下書き）

[224] 松方正義^{まさよし}の書簡

松方正義は明治期の政治家。大蔵大臣・内閣総理大臣を勤める。正義の書簡は日本医史学雑誌第57巻第4号に1通掲載に付省略。

[225] 松坂寿平次^{しゅへい}の書簡

松坂寿平次は箱根木賀温泉宿主人。

1 明治 年1月2日 (2723)

尚々甚寒之時折角御自保專要と奉存候、本年も不相変御光駕之程懇希候也

改曆之嘉祥万里共新日出度申納候、先以喬堂倍御洪福被遊御超歳欽喜之至奉祝賀候、次ニ寒舎一般無異事迎陽仕候間乍畏憚御休慮可被成下候、斯ニ端尾之慶辞申上度、自余期暄融之時候、恐峯謹言

一月二日 松坂寿平治 印

池田謙斎様

2 明治 年7月7日 (2724)

御全家益御万福奉賀候、次弊舎一同無異罷在候間乍憚御休神可被下候、扱毎度御入浴之節は御尊来被成下難有奉拜謝候、且亦本年も不相変御入湯御光来被下度、此段一同奉待候、乍末毫御館君様方へ宜敷御通声可被下候、先は右御伺旁御報知申上候也

七月七日 木賀温泉 松坂寿平治

（印刷物）

[226] 松田道之^{みちゆき}の書簡

松田道之は明治期の官僚。天保10年鳥取藩家老家に生まれる。幕末薩長に組し活躍。大津県令・内務大丞・明治11年東京府知事等歴任、地方自治制を推進。15年7月6日没。享年44。（1839-1882）

1 明治9年11月20日 (2731)

御清適奉敬賀候、陳は愚妻儀咽喉之患部は追々快方之様にも候得ども、又余状相発シ、最前病発之時之容体之如く御坐候間、毎度御足旁之段恐縮に候得ども明日中ニ御来診被下候様奉願候為其、勿々敬白

明治九年十一月二十日 松田道之

池田先生

2 明治11年5月8日 (2732)

御清適奉敬賀候、陳は小生之友人ナル河田従五位と申者此頃大患ニテ難儀罷在候ニ付ては何卒先生之御一診願上度ニ付、小生より願具候様倚頼ニ有之、小生に於ても親友之儀付、是非先生之高診為

受度希望仕候間、御多用中恐縮候得ども同人宅迄御枉駕被下候得は実ニ本懐之至ニ奉存候、為御迎同人之悴某参上候ニ付御同伴奉願候、不取敢御願迄、勿々敬白

明治十一年五月八日 松田道之
池田先生 坐右
二白、刀圭ハ戸塚文海氏⁽¹⁾之よしニ御坐候也

(1) 戸塚文海 天保6年備中国に生まれる。緒方洪庵・ボンペ・ボードウインに学ぶ。徳川慶喜侍医。明治9年海軍々医総監。16年退官後高木兼寛と東京慈恵病院創設。34年没。享年67。(1835-1901)

3 明治12年2月27日 (2735)
(封筒表) 駿河台北甲賀町十五番地 池田謙斎様
(封筒裏) 上下ノ 二月二十七日
四ツ谷仲町三丁目
鉄炮坂改正四十四番地 松田道之

御清適奉敬賀候、陳は御願申上度儀有之候に付、明二十八日午前九時迄ニ参館仕度、御差支ハ不被為在候ヤ奉伺候、若シ明朝御差支御坐候得は何日何時頃ニ参上候得は御在宅に候ヤ貴答拜待、勿々敬白

明治十二年二月二十七日 道之
池田先生 侍史

4 明治12年8月20日 (2738)
明治十二年八月二十日 松田道之
池田大国手 侍史
一、診察料 三円
一、御菓子料 一円
ノ

5 明治13年1月20日 (2741)
旧臘之大火ニ罹リタル窮民救済トシテ金百円御寄贈相成、正ニ受領致候、謝詞旁如此候也
明治十三年一月廿日東京府知事 松田道之
正五位 伊藤^(ママ)方成殿
従五位勲四等 池田謙斎殿

6 明治 年11月21日 (2730)
今日別紙を為持本郷病院迄一价差出シ候処、御出勤無之、其後御来診被下候ヤと相待候へども御出無之、依テ明日迄相待候ても宜敷ヤニ候へども、別紙書面相認候後之容体ヲ勘考仕候ニ、何分難安次第ニ有之、并乃チ池田へ之手紙為相持御相談旁一人差出シ申候、今日終日之容体左之如シ
一、葉ハマヅクヨシニテ更ニ飲ミ不申候
一、面部之腫レ甚ク遂ニ全身ニ及ヒ手足迄腫レ申候
一、小便ハ今朝十時頃より少シも参リ不申候
一、大便ハ昨朝未明ヨリ不通
一、食気無之、少シハ食シ候へども何分不好方ニ御坐候
一、脈数ハ今日午後五時百十三
右之様子ニ付今朝之別紙と御参考、且明日池田ト御来診之儀時刻等御定メ被下度候也、敬白
十一月二十一日夕 道之
時敏君⁽¹⁾

(1) 時敏 松田家出入の医師 山内時敏。本書簡は松田道之が山内時敏に出したもので、同時に松田道之は下記書簡(整理番号2740)を池田謙斎宛に出している。

7 明治 年11月21日 (2740)
拜啓、陳は過日ハ小兒病氣ニ就ハ再度も御高診被下候処、尔後多事ニ取雜セ未タ御礼ニも参館不仕候段御寛恕是祈候、然る処過般病氣後引続キ又一種之病状ニ転シ昨今甚タ難儀罷在候ニ付、何卒毎度乍御苦勞明日午(空欄)時御来診被下度、其刻ハ山内氏も来臨候様可仕候、右御倚頼而已、勿々敬白
十一月二十一日夕 松田道之
池田先生 侍史

8 明治 年12月10日 (2733)
(封筒表) 神田区北甲賀町八番地 池田謙斎殿
(「使送」ゴム印)
(封筒裏) 松田道之
〈封印に「(欠)生課」のゴム印〉

当府医術試験之義ニ付御助勢相成鳴謝之至リニ候、因て聊晚餐を進度候條、来ル十八日午後三時築地寿美屋へ御來車被下度、此段及御案内候也

十二月十日 松田道之
池田謙齋殿

9 明治 年6月6日 (2739)

御清祥奉敬賀候、陳ハ拙生儀先日來病氣之処、何分発措不日荏苒罷在候ニ付、兩三日休養致シ居候ニ付てハ一応先生之高診を仰キ度、主治山内氏よりも可相願と之事ニ御坐候間、御多忙中御苦勞之御儀に候へども明日御出診之路次御立寄被下度、此段願上度為其、匆々敬白

六月六日 道之
池田先生 侍史

10 明治 年6月11日 (2734)

(封筒表) 池田謙齋様
(封筒裏) (封印) 松田道之

昨日ハ御光來被下難有奉存候、猶又一兩日中御來診被下候と之趣キ、右ハ何日何時頃ニ御坐候ヤ御都合奉伺度、今日に候得は終日何時にても宜敷候得ども、若シ明日に候へハ無拋用事有之一応出勤仕度ニ付、午後四時より六時迄之間ニ願上度御都合御垂示被下度候、匆々敬白

六月十一日 道之
池田先生 侍史

11 明治 年6月12日 (2737)

(封筒表) 池田謙齋様
(封筒裏) (上下封印) 松田道之

今日ハ一応出勤仕り度心得之旨申上置候処、昨夜より又々痛を覚へ薄暮より今晩迄終夜胃部胸部背部共痛を覚へ、今朝も食氣無之、且身体シツシツ冷氣を覚へ申候、先刻より胸背共少々緩ミを覚へ候得とも、一昨日、昨日之爽快ニ比すれば難儀ニ御坐候、此段一応申上置候、付てハ明日も休養之心得に候間、今日明日共当方ニハ差支無御坐ニ付、御都合次第御來診被下度、御心得之儀も可被為在と存候ニ付、不取敢一書を呈シ候、匆々敬白

六月十二日 松田道之

池田先生 侍史

12 明治 年6月22日 (2736)

(封筒表) 池田謙齋様 仰御答
(封筒裏) (封印) 松田道之

拜呈、陳ハ先ツ別段異状も無御坐候得ども、昨日ハ何故乎終日終夜脊髄より脊髄之左右をダルミを帯びたる痛を覚へ申候、將又近日ハ何日何時頃御光來被下候ヤ、実ハ昨日山内來診、先生之御光來之時日ニ参り度ニ付、一応御都合相伺候様申候ニ付、此段相伺候條御垂示被下度候、匆々敬白

六月二十二日 道之
池田先生 侍史

13 明治 年6月28日 (2729)

(封筒表) 池田謙齋殿 親展
(封筒裏) 〆 六月廿八日 松田道之

昨日御診察ヲ受ケタル後ヨリ今朝迄終夜胸背共例ノ痛ヲ覚ズ、尤モ絶食ノ故カ身体甚タ疲勞 腕ニ付キ、目ヲ閉レハコウ忽トシテ眠リ、手足身体ヲ動スモ其力ニ堪ヘ難キ心持ニテ服部より以上頭上迄始終汗ヲ催シ、尤モ頭上ノ左部ニ至リテハ汗ノ玉ヲ流ス有様ニ有之、十二時眠リ醒メ渴ヲ催シ食ヲ欲スル心持有之ドモ、ソツプ、ライスカレ、牛乳、玉子等之如キハ之ヲ食セント思フモ忽チ嘔氣ヲ催ス心持有之、依テ極クヤワラカキ飯ヲ茶漬ニシ桜味噌ヲ添ヘ輕ク一腕ヲ喫スシタル処、喉ニ入ル、コト引入ル如ク実ニ生キタル心持セリ、其後今朝迄胸背共ニ痛ヲ覚ズ何ニトナク力付キタル心持ニテ精神爽快熟睡致シ候、今朝眠リ覺メ便器ニ付キタル処、少々暫便氣ノ催ヲ誘導シタレトモ更ニ通ジナシ、小便ハ凡ソ一合余色ハ例ノ如ク茶色ニ有之候、其後少々神ケイノ中心ヨリ上ヲ少々痛ヲ覺ユ、胃部ノ処グルグル鳴リ指ニテ之ヲ押サユレハ左ノ胃部ヨリ左ノ胸部ニ響クハ例ノ如クナレトモ其他ハ胸部ニハ更ニ響カズ、却テ少シク腸ニ響クノ心持アリ、今朝昨夜ノ如ク茶漬ヲ喫シタル処、昨夜程ニ味ノ美ナルヲ覺ズ、然トモ尚ソツプ、ライスカレ、玉子、牛乳等ヲ食セント思ヘハ矢張り嘔氣ヲ催シ候

尚申上候、昨夜茶漬ヲ喫タル後身体及ヒ頭上ノ

汗ハ自然ニ止タリ、今朝ハ少シ頭上ノ左部ニ汗
ヲ生スル位ニ相成居候
六月廿八日

14 明治 年12月18日 (2743)

過日診察料及ヒ菓子料トシテ七円五拾銭拜呈候
処、家来之者取違へ六円五拾銭差出シ趣、疎漏之
段実ニ恐縮之至ニ奉存候、依て甚タ失敬に候得ど
も一円差出シ候間、御握手被下度候也、勿々以上
十二月十八日 松田執事
池田様
御執事御中

15 明治 15年7月6日 (2742)

(封筒表) 神田区駿河台甲賀町九番地
池田謙斎様 (切手壱銭)
(封筒裏) 松田信敬
父 道之儀久々病氣之処、養生不相叶今午前七時
致死去候、此段為御知仕候也
七月六日 □□□十四番地 松田信敬
追テ明後八日午後一時出棺青山墓地へ致埋葬候
(印刷物)

(注) 松田道之は明治15年7月6日病没している
ので本書簡は明治15年である。

[227] 松平確堂^{なりたみ}(齊民)・康民^{やすたみ}・数見 伝の書簡

松平確堂(齊民)は旧津山藩主。康民はその嗣
子。数見伝はその執事か。齊民・康民・数見伝の
書簡は日本医史学雑誌第55巻第4号に3通掲載
に付省略。

[228] 松平直亮^{なおあき}家扶・北尾漸^{ぜんいちろう}一郎の書簡

松平直亮は旧出雲松江藩主家嗣子。北尾漸一郎
は同家主治医。直亮・北尾漸一郎の書簡は日本医
史学雑誌第55巻第4号に2通掲載に付省略。

[229] 松平直致^{なおむね}家扶の書簡

松平直致は旧播磨明石藩主。直致の書簡は日本
医史学雑誌第55巻第4号に1通掲載に付省略。

[230] 松平慶永^{よしなが}の書簡

松平慶永は旧越前福井藩主。慶永の書簡は『東
大医学部初代総理池田謙齋』下巻に1通掲載に付
省略。

[231] 松波資之^{すけゆき}(遊山)の書簡

松波資之は明治期の歌人。号は遊山。天保元年
広島郷土家に生まれる。京都徳大寺家に仕え、香
川景樹に学んだ。維新後は皇太后宮に仕え内舎人
として雑掌を務める。明治39年横浜にて没。享年
77。(1830-1906)

1 明治 年9月22日 (2750)

過日は遠方の処御苦勞さま有かたく、本人も大ニ
よろこひ申候、あの晩葉をぬりカユ止、昨日も日
夜、今日なとも追々よろしきよしニ有之候、御葉
ハ明日半日分有之よしニ御坐候、右容体申上候也
九月二十二日 遊山
池田様
尚々嘉右衛門氏⁽¹⁾も過日之勝負引つゝき御手
合 申度□□□御坐候、御閑日之節御出遊奉希
候也

(1) 高島嘉右衛門 明治期の実業家。天保3年
生まれ。高島吞象と称し易学で有名。大正3
年没。享年83。(1832-1914)

2 明治 年9月29日 (2751)

高しま氏も御蔭にて大ニよろしきやうすニ御坐
候、就てハ今一応御診察相願、此後之服薬等御さ
し図相願度、乍御苦勞一両日之内ニ御来診被下度
相願候旨御坐候、此段御願申上候也
九月二十九日 遊山
池田様
尚々昨日の大風御障無御坐候哉、相伺候也

3 明治 年3月10日 (3614)

別冊奉呈囲碁御楽之御事故、御賛成被下候様ニと
方円社一同より願出候
三月十日 資之
池田様

[232] 松野^{はざま} 礪の書簡

松野礪は明治期の林学者・林学教育者・農林行政官。弘化3年生まれ。東京農林学校・帝大農科大学教授歴任。後に農林行政官として活躍。明治41年没。享年63。（1846-1908）

妻はドイツ人 クララ ルイーゼ チーテルマン。

1 明治 年2月12日 (3322)

過日ハ尊来ヲ辱シ奉万謝候、陳愚妻容体も御蔭ヲ以追々快方ニハ有之候得共、兎角例之腹痛〔尤も余程軽ノ微ニは相成申候〕全治不仕甚込入申候、昨日は御門人御来診相待居候共、定て御多忙故か御来車無之候間、一応其後の形勢申上度左ニ

一、腹痛ハ尔後余程軽く相成候得共未タ（欠）ハ不絶有之候事

一、其後少々熱之往来有之候得共、只今ハ（欠）様相見へ申候

一、食気ハ未タ無之、頭痛烈しく御坐候

一、如何之故か昨夜中より又々月経之如流血相催候事

右は已之荒増ニ御坐候得ハ御参考迄申上候間、御葉ハ前方にてよろしく候哉、又は御加減被下候哉、委曲此者へ御申聞可被下候、右申出度勿略頓首

二月十二日 礪 拜
池田先生 侍史

昨日は御薬用切候間、御前方一日分丈調査させ相用申候

2 明治 年2月14日 (3321)

過日來度々御枉駕御苦勞ニ奉存候、陳は其後病人共之容体凡左之通ニ御坐候

愚妻儀

一、昨日冷水ヲ以頭部を冷し候故少々頭痛は軽く相成候相覚申候

一、腹部之痛ミハ毎々少々ツ、は有之候得共、大便秘之節痛ミ甚しく御坐候、熱気ハ未タ依然タリ、但シ今朝八字ニキニーネヲ相用ひ申候

一、嘔気ハ今日は無之様相成申候

〆

小児儀

一、昨日は御診察之時ト凡同様ニ有之候得共、夜中殊之外熱氣相増り随テ咳嗽も甚しく終夜安眠不仕喝強く御坐候

一、今朝より熱氣依然トシテ未タ解熱之模様無之、加之咳嗽甚しく夫故か嘔氣相催し折節吐し申候

一、今日は熱氣故か始終トロタタト眠り折々ウハ言なそ申候

一、今日は食気も甚乏しく少シ喰候へは直ニ嘔氣相催し申候

右荒々之容体ニ有之候間一寸御報知申上候也、付ては小児儀容体甚不安心ニ有之候間、何共申出兼候得共、自然御序トテハ無之トモ早々御来診相成度、もし御繰合御六ヶ敷被為在候ハ、御門人之内御老人御差越被下候ハ、難有仕合ニ奉存候、右相願度勿々頓首候也

二月十四日 礪 拜
池田先生 侍史

3 明治 年7月30日 (3355)

前略高許候、今朝一書差出候処、御留守中紛失仕候趣ニ付、事情貫徹不仕相伺度件も未決ニ有之候間、尚以書中得御意候、然は此程は御蔭ヲ蒙り病痾速ニ平癒奉万謝候、就ては兼て志願之通り休暇中ハ熱海温泉へ罷越度心得ニ御さ候処、悪疫流行ニツキ遠路旅行も困難ト存、可相成ハ此近傍王子辺へ避暑シ人造浴相用度、就ては右湯法（欠）願〔海水浴ナレハ可然とノ奉存候得共該所は夫もノ（欠）願クハ薬剂湯にてノ小生持病之レオマテスニ適スルモノ〕度、御繁忙之御事彼是御面倒ニは可被為在、何卒御法書此者へ御垂楮奉希候、愚按ニは硫黄花湯又ハ食塩湯は（欠）可有之哉、果シテ（欠）驗有之候モノニ候ハ、右分量度数等委曲御教示可被下候、先ハ右奉願度乍卒尔如此御さ候也

七月三十日

追テ愚妻儀此程より不快ニ有之候処、御蔭ヲ以是又快方ニ御坐候、就ては例ノ鉄酒引続相用候てよろしく哉何呉との事ニ御さ候

先生 玉案下

[233] 松野久良々の書簡

松野久良々 Clara Louise Zitelman は1853年(嘉永6年)ドイツ ベルリンに生まれる。フリードリッヒ フレーベルが創立した保母学校に学ぶ。明治9年来日し、ドイツで知合った松野礪と結婚。東京女子師範学校付属幼稚園の首席保母としてフレーベル教育法を導入した。夫 礪が死没後、ドイツへ帰国。1941年(昭和16年)没。享年88。(1853-1941)

1 1882年(明治15年)12月9日 (3379)

拜啓、再びご面倒をおかけすることをお許しく
ださい、昨晚十二時から一時にかけてひどく体調
が悪くなり、それゆえご助言を必要としておりま
す、昨日夕方の散歩の際に風邪をひきまして、親
戚のところへ熱湯にレモンと砂糖をいれたものを
のみまして、自宅についてからも非常にのどが乾
いておりましたので、とても大きな湯飲み茶わん
で日本茶を3杯のみました、夜中に目が覚めたと
ころ、高熱があり、胸がひどく苦しくありました、
すると手足が急激に冷たくなったので、すぐに熱
い足湯をしました、するといつものようによくも
悪くもかなりの量の発汗と排便がありまして、そ
の後よくなりまして、また眠りにつきました、今
朝自分で伺いたかったのですけれども、長い道中
で再び気分が悪くなるのではないかと不安です、
舌には舌苔があり、今朝から二度、ひどい下痢で
はありませんがいくらかゆるい便が出まして、胃
と体が少しきりきりと痛み、悪寒もします、先生
に只今お願いしたかったことは、この手紙をご了
承いただきましたら、お薬を処方していただき、
またもしご都合がよろしければ往診していただ
けたらと思います、とりわけ松野はひどくやつれて
見えますし、気分もまったくすぐれず、食欲も
まったくありません、夕方四時以降には松野が在
宅しておりますので、それくらいの時間に先生に
往診していただきますよう何とぞよろしくお願い
いたします、敬具

82年7月25日

番町 松野久良々

2 1883年(明治16年)6月8日 (3380)

拜啓、再び手紙にて失礼いたしますことをお許
しください、松野に処方されたお薬はよく効きま
した、足の痛みはほぼおさまりまして、ただ歩く
際には多少の痛みが生ずるとのことです、熱は完
全にさめまして、食欲も非常にありますが、足の
患部はいまだに少し腫れております、ふみさんも
よくなりまして、食欲もあり、排便もあり、先日
よりもよくなりました、のどのリンパ腺はまだ少
し腫れています、松野とふみさんにはもうお薬は
必要ないとご判断なさるなら、それはそれでよろ
しいかと存じます、私もかなりよくなりまして、
食欲もありますし、定期的に排便もあります、し
かしながらまた寒くなりましたし、先生ご自身が
一番よくご存じかとは思いますが、私はまたすぐ
に風邪をひきますでしょうから、胃の薬はやはり
まだ戴きたいと思ひます、軟膏がもうありません
ので、たみしの指のお薬もお願いいたします、お
世話になりましたまことにありがとうございます
ます、松野もよろしくお伝えするように申して
おります、敬具

1883年6月8日

番町 松野久良々

(注) 2通共原文は独文。大塚恭男氏訳。

(松野久良々の書簡は次号に続く)

[主要参考文献]

- 朝日新聞社編『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社
1994年11月30日発行
池田文書研究会編『東大医学部初代総理池田謙齋』上・
下巻思文閣出版 2007年2月25日発行
日本歴史学会編『明治維新人名辞典』吉川弘文館
1981年9月10日発行
大植四郎編『明治過去帳』東京美術 1971年11月20
日発行
入澤達吉著『隨筆 楓荻集』の内「思出の記」岩波書
店 1936年発行
日本医史学雑誌第54巻第4号 2008年12月発行
日本医史学雑誌第55巻第4号 2009年12月発行
日本医史学雑誌第57巻第4号 2011年12月発行